

- * 「決して死にません」と蛇は一挙に攻め込んだ。神の言葉を否定し、神は嘘つきだと決めつけた。
- * 最後に「目が開け、神のようになり、善悪を知る」という抵抗しがたい誘惑でエバを押し切った。
- * 三つの誘惑
 - ① 食べるのに良く：生理的、肉体的誘惑
 - ② 目に慕わしく：感情、美的感覚への誘惑
 - ③ 賢くする：知的、靈的洞察力への誘惑

設問2

美味しいものを美味しいと味わう味覚、美を見分け、喜ぶ感覚と心、知的・靈的洞察力を高めたいと思う向上心。これらは主が人に与えられた賜物ではなかったのか？
これを欲しいと思うことが何故悪いのか？

(3) 巧みに本音を隠すサタン (Ⅱコリント 11:13-15)

エバを誘惑した手練手管に分かるように、誘惑するものは、人類史の初めから今に至るまで、美しい姿と言葉と優しい素振りと論理で順序を踏んで人を惑わし、深みに陥れる。
パウロが説明しているように、「サタンは光の御使いに変装する」のである。

(4) 禁じられていた木の実を遂に食べた (創 3:6)

エバは誘惑に負けて木の実を食べ、いっしょにいた夫も食べた。
アダムはそばにいたのである。エバと蛇との会話を聞いていたはずであり、会話に割って入ったと書かれていないので黙っていたのだろうか？ 「食べたら必ず死ぬ」と主に命令されたのはアダム一人である。
アダムはこのことが起こるのを何故止めなかったのか？ 何故いっしょに食べたのか？ 分からない。

しかし、主の言葉を信じなかった、主に従わなかった、主の判断の上に自分の判断（判断というほどではなくても、自分の決断）を置いたのは確かである。これが人間中心主義・ヒューマニズムである。

設問3：「必ず死ぬ」とはどういう意味でしょうか？

- ① 靈的死。肉体の死は含まれない。二人は死ななかった。アダムは930年も生きた。
- ② 肉体の死だけを意味。この木の実には何か遅効性の毒が含まれていた。この木の実は何でしょうか？
- ③ 靈的死と肉体の死の両方の死を意味する。

[Ⅲ] 主との断絶

(1) 主との断絶

自分たちを造って下さった創造主の判断を退けて、サタンの声に従った。神の支配を嫌い、自分を神の上に置き、真理・正義の基準を自分が定めることにした。それが「知識の木の実」の実質である。
創造主に真っ向から反逆し、「必ず死ぬ」と言われていたこと、死刑が直ちに執行された。

自分たちが裸であることに気が付き、それを恥ずかしいと思った。アダムとエバは、裸であることを知らなかったのでしょうか？ 裸でも恥ずかしいと思わなかったのに、何故、急に恥ずかしいと思うようになったのでしょうか？ 自分たちの素顔・真実を醜い・恥ずかしいと思うようになってしまった (創 3:7)。

主が「あなたはどこにいるのか？」 (創 3:8-10) と声を掛けて下さった。このように声を掛けることによって、主が意図されたことはどういうことだったのだろうか？ 彼らがどこにいるのか主がご存じなかったのではない。彼らは主を恐れ、隠れた。

(2) 互いの断絶・不信

主がエバを創造なさった時、アダムは次のようにエバを評した。

「これこそ、今や、私の骨からの骨、私の肉からの肉。(創 2:23)

ところが、主に反逆して叱責された時に責任転嫁して、主が悪い、エバが悪いと苦々しく言い放った。

「骨からの骨、肉からの肉」が、「そばに置かれたこの女」に変貌した。(創 3:12)

[IV] 主の処罰「死刑」・エデンの園からの追放

(1) 追放 (創 3:22-24)

人がいのちの木に近付かないように、エデンから追放し、近づけないようにされた。

設問4 主は、何故、いのちの木に近づけないようにされたのだろうか？

死ぬと言われたけれど、いのちの木に近付くことが出来れば、死なないではないか。蛇が暗示したように、主は慈愛深くないのか？

(2) 土地は、呪われてしまった (創 3:17-19)

*人は「ちりだから、ちりに帰らなければならない」

*不毛の土地に種を蒔いても、育たない。(ルカ 8:14)

[V] 進化思想・ヒューマニズム

(1) バベルの塔 (第三の裁き) (創 11:1~9)

創造主へのアダムへの反抗は、人類史全体を大きく歪めてしまった。

木の実を取って食べただけに、ノアの洪水・バベルの塔に向かう道であった。

天まで届こう、「名をあげよう」という凄まじい人類の欲望は止まるところを知らない。

人が神の領域に立ち入ることは罪の行為として罰せられるのは、人類史の初めから決まっていたことである。
(ハバクク 1:11)

(2) 墮落した脳

進化論は正しい。聖書を進化論で曲げて読み込む。墮落した脳は、自分を創造してくださった方に背き、NOを言う。頂いた賜物を駆使して、反対のための反対を考え出す。

進化論はキリスト教会にも進入してきて、墮落した脳は聖書を虫食いだらけにした。

(3) 人間中心主義の増長・進化思想の蔓延 (ローマ 5:12)

人類の先祖アダムは、主の愛を知りながら反逆するという赦しがたい重大な罪を犯し、その結果、世界中に進化論がどんどん蔓延し、罪が満ち満ちてきた。

人は逃れられない罪から、ヒューマニズムの呪縛からどうすれば脱出できるのか？

[VI] 主が下さった皮の衣

アダムとエバの罪を覆うための主の用意

神である主は、アダムとエバのために血を流して皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。(創 3:21)

イエス・キリストの十字架による贖いへの道の出発